

令和七年度 中学生の「税についての作文」

柏税務署長賞

税のバトン

野田市立北部中学校 第三学年 渡辺 羽都

最近、ニュースや両親の会話の中で「税」という言葉をよく耳にする。それも日本国内だけでなく、世界中で「関税」などが話題になつていて。どうやら税は世界に大きな影響を与える力を持つていてるらしい。そのとき私はふと考へた。そもそも税とは何なのだろうか。

税とは何かを考へる中で歴史好きの私は、飛鳥時代に作られた「租・調・庸」がまず思い浮かんだ。この税制は、人民が中央政府に対して穀物や布を納めたり、兵役を負つたりすることをもとに、政府が国を運営するというものだ。現代社会でも国民が税金を国に納め、国の代表が国民の意見を反映しながら、その税金により国づくりをしてる。遙か昔から今日に至るまで、税の持つ意味を考へてみると「豊かで公平な国」をつくるために使われているといふことではないだろうか。

税金の使い道として、例を挙げるとすれば学校をはじめとした公共施設などがある。これらの公共施設は、国民の税金で設立・運営されているが、国民が平等に利用でき、「豊かで公平な国」をつくるという理念のもとに使われていると思う。しかし、もし税がなかつたら国を支えるものがなくなり、行政の仕組みもうまくいかないのではないか。このことから税とは国を支え、充実させるためのものだとわかった。

私の中学校では、最近、体育館の空調設備の工事が始まつた。

私は、この夏に引退するまで卓球部に所属していた。卓球というスポーツの性質上、窓を開けて風が入るとプレーに支障が出てしまう。そのため、練習中は真夏でも窓は締め切り、十分な換気ができず、熱中症になつてしまふと感じるほど暑い。しかし、体育館にクーラーがつくという話を聞いて、「あと一年早く工事が始まつていれば……」と思つてしまつた。自分のことだけを考へてしまつたが、よく考へると今後、中学校の後輩たち、地域の方々、もしかしたら将来自分の子どもも空調設備の整つた体育館を使えるようになる。そのように考へると今、工事が始まることがとてもうれしく思えた。

私は三年生あと半年ほどで卒業してしまうのでクーラーの恩恵を受けられないが、次の世代まで継続的に恩恵を受けることができる。この恩恵の連鎖、言わば「税のバトン」は、はじめにふれた飛鳥時代の「租・調・庸」から今の時代まで途切れることなく、時代に適応して受け継がれてきた。次は私たちの世代が、前の世代から受け継いできた税の恩恵を次の世代に渡すことが役目なのだと思う。また、自分が税を納める立場になつてもこのバトンを忘れずに税と向き合つていきたい。